

22日自然第54号

2009年9月13日

森林塾 青水 殿

財団法人 日本自然保護協会
理事長 田畑 貞寿



第10回日本自然保護協会沼田眞賞受賞者の決定について(決定通知)

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より当協会の自然保護事業へのご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当協会は創立50周年を記念して、故沼田眞会長を記念した日本自然保護協会沼田眞賞を設置し、自然保護・自然保護教育に尽力された方々を表彰しております。

第10回目を迎える今年度は、当該選考委員会による審査に基づき、当協会理事会の承認を受け、貴会を受賞団体とすることを正式に決定いたしましたので、ご通知申し上げます。

なお、来年1月に、東京都内にて授賞式・記念講演会を行う予定です。詳細につきましては別途ご案内いたしますので、お含みおき賜りますようお願い申し上げます。

敬具

[事務局担当] 財団法人 日本自然保護協会 田村
〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F
TEL.03-3553-4101 Fax.03-3553-0139
tamura@nacsj.or.jp

平成 22 年度 第 10 回日本自然保護協会沼田眞賞 受賞者

佐々木克之（ささきかつゆき）

授賞理由「河川から沿岸・干潟にいたる物質循環の研究と自然保護への貢献」

佐々木克之氏は、水産庁水産研究所における沿岸海域の物質循環の研究を通じて、干潟の浄化機能の重要性を明らかにし、その研究成果をもとに、中海干拓、諫早湾干拓、中部国際空港などの開発が干潟や沿岸漁業に重大な影響を与えることを社会に訴えた。また最近では、川辺川ダム、設楽ダム、二風谷ダム、サンルダムなどの開発が沿岸域に与える影響を指摘し、北海道自然保護協会副会長として、河川環境の保全にも取り組んだ。科学的研究の成果を社会に還元し、自然保護問題の解決に取り組むという佐々木克之氏の姿勢は、日本自然保護協会沼田眞賞の対象となると評価された。

森林塾 青水（しんりんじゅく せいすい）

授賞理由「茅場の再生と活用による文化と生物の多様性保全」

森林塾 青水は、利根川水源のみなかみ町藤原において、地元住民、大学、企業、行政と協働しつつ、かつて入会地として利用され、その後放置されていた茅場を再生し、失われた入会慣行を現代に蘇らせる活動を行ってきた。茅場という自然資源の価値を高めるため、文化財建築物の修復・保存を専門とする企業の協力により、神社や古民家の茅葺屋根の修復に結びつけたり、下流域の大学との協力により「環境支払い」の構想を検討するなど、茅場という二次草原を文化と生物の多様性の両面から再評価し、流域ネットワークを通じて保全する先駆的・モデル的な活動であり、日本自然保護協会沼田眞賞の対象となると評価された。

NPO 法人こんぶくろ池自然の森（こんぶくろいけしぜんのもり）

授賞理由「こんぶくろ池湿地の調査・保全活動を通じた自然博物館の実現」

千葉県柏市北部にあるこんぶくろ池は、南関東の台地上に湧出した湧水地でありながら、ズミ、クロウメモドキなど冷温帯に分布する湿生植物が生育する貴重な湿地である。つくばエクスプレス沿線開発による影響からこんぶくろ池を守るため、「こんぶくろ池を考える会」が千葉大学と東京大学の協力による調査に基づいて提言活動を行った結果、池は市の自然博物館として保全された。こうした成果をもとに、2010年4月、NPO 法人こんぶくろ池自然の森が発足し、関連団体とともに自然博物館の保全・再生・管理にあたることになった。これらは、市民、大学、行政の協力によって、都市の自然を保全する先駆的・モデル的な活動であり、日本自然保護協会沼田眞賞の対象となると評価された。

以上